北海道立教育研究所

所長室通信

第５号
2024.2.26

変革期の校長に大切にしていただきたいこと②

自身の「思考特徴」を自覚して判断する

校長の重要な役割として、「判断すること」があります。新たなことや大きな変化を伴う取組では、児童生徒はもとより、保護者や地域の人たち、教職員等の多くの方々、そして学校運営全体に対して大きな影響を与えることから、その実施に際しては、より適切な判断が求められます。

皆様は、判断する際、どのようなことに留意されていますか。

情報を収集することや多面的・多角的な視点を大切にすることなど、様々なことが考えられますが、まずは、自身の思考特徴、思考の偏りを自覚することが重要ではないでしょうか。

例えば、学力向上のために新たな取組を企画する場面を考えてみましょう。

大規模の中学校で生徒指導部を中心に担当してきた校長と、小規模の小学校で低学年と研究部を中心に担当してきた校長の判断を比較した場合、視点や発想、内容が違ってしまうことは容易に想像できます。この違いの要因として、それぞれの校長がこれまで経験してきた校種、担当した学年や校務分掌、教職員や地域の人たちとの出会い、成功や失敗などから影響を受けて、思考が偏ることが考えられます。こうした偏りはあって当然なのですが、大切なことは、自身の偏りを自覚して、より広く情報を収集したり、他からの意見を参考にしたりして、自校にふさわしい取組となるよう調整することなのです。この姿勢が校長の適切な判断につながっていくと考えています。

職位が上がるほど、思考の偏りやクセが顕著になってくる傾向にあります。一方、周囲では、率直に意見を言ってくれる人は少なくなってきます。したがって、校長をはじめ職位の高い皆様は、自身の思考特徴や思考の偏りを客観的に見つめ、それを自覚し、時には自身の考えや言動を疑うなど、セルフチェックする姿勢を大切にしながら、適切に判断していただくことをお願いいたします。

（文責：北海道立教育研究所　所長　中澤美明）